

生きる力

SHINGON

特集

「生きる力」とお大師さま

ご縁を授かり、仏さまとともに生きてゆく

結縁灌頂・発心式

生きる力 SHINGON

Vol. 119

えんどう たもんでん
燕堂多聞天
えんぶくじ
圓福寺

越後新四国八十八ヶ所霊場第七十九番

季節はちょうど梅雨が終わろうかという頃。魚沼の青々とした田園風景も、正月を迎える頃には雪に覆われるのか、などと考えながら今回取材する圓福寺へと向かいました。

圓福寺のある新潟県魚沼市は、いわずと知れた米どころ。清らかな水が流れる堀と、水をたたえた田を抜けた先に圓福寺がありました。

山門を抜けると、まず目に飛び込んできたのが大杉からの木漏れ日に照らされた苔庭です。この苔庭は宝永元年（一七〇四）、京都より招かれた庭師の手による池泉庭園で、屹立した険のある石組みではなく、京風ながらも面を横たえた岩々は、どこか穏やかな表情をしています。

その苔庭を囲むように伽藍が配されています。燕堂とも呼ばれる圓福寺の本堂は、明暦三年（一六五七）のもので、急な傾斜のついた屋根は積雪を免れ、大人の背を越すほどの高床は雪に埋もれないための、雪国ならではの構造だといえます。この本堂のご本尊が、多聞天です。多聞天は毘沙門天とも呼ばれ、越後の戦国武将である上杉謙信が信仰したことも有名です。多聞天信仰に篤かった上杉公は天正二年（一五七四）、ここ圓福寺にも訪れ戦勝を祈願し、その手づから杉を植えたと伝わります。その杉が「手植えの杉」として、境内に現存することからも、圓福寺の歴史の厚みがうかがえます。



圓福寺本堂。明暦3年（1657）の建立で、雪国ならではの高床と、“兜造り”と呼ばれる屋根が特徴的。

春秋十二列国 燕とのゆかり

圓福寺は、奈良時代に聖武天皇の勅命を受けた伏行上人により、北陸の鎮護道場として創建されました。燕堂という名は、中国古代の春秋十二列国である燕に由来し、この燕伝来の仏像を本尊としたことによります。もともと圓福寺と燕堂は別の寺院でしたが、火災を機に圓福寺へと移ったと伝わります。平安時代には、当地の坂戸城主であった越後守城長茂が帰依し、「燕堂道」として今にも残る大道が奉納されました。続く室町時代には足利義満より十萬石の格式を賜るなど、その隆盛は越後屈指のものであったでしょう。圓福寺は幾度も火災にあいながらも、現在に多くの歴史を伝えていきます。

信仰の空間

本堂の須弥壇中央には精悍なたたずまいの多聞天が祀られています。そのご本尊の両脇には、宗祖弘法大師と中興の祖興教大師が並び、その前には真言密教を伝え弘めた「伝持の八祖」の尊像が並んでいます。さらに、須弥壇左右の脇壇には阿弥陀如来と大日如来が鎮座し、その外側には観音菩薩と稻荷社が祀られます。本堂の柱は、雪の重みに耐えるために太く、間隔が狭いこともあいまってか、

多くの仏さまに見守られる濃密な信仰の空間が感じられました。

本堂左手には、平安時代の作という地藏菩薩が見守る位牌堂が連なり、客殿へと続いています。

客殿の仏間では、阿弥陀如来が多聞天と不動明王とともに祀られます。こちらの阿弥陀

如来像は銘文に建保二年（一一二四）造立と

あり、国の重要文化財となっています。お姿を拝見するとなんと優しいお顔立ち。極楽往生だけではなく安産にもご利益があるといいますが、なるほどこの柔和なお顔を拝むだけで、お産の不安もやわらぐようです。

阿弥陀如来の右脇には、同じく国の重要文



- 1 苔庭。圓福寺のために作られたという堀から、豊かな水が引かれている。
- 2 本堂須弥壇。中央にはご本尊の多聞天、周囲に真言宗の祖師が祀られている。
- 3 位牌堂。平安期作の地藏菩薩を中心に、お位牌が祀られる。
- 4 上杉公手植えの杉。

化財である多門天像が並んでいます。本堂の多聞天像は雄々しいお顔でしたが、こちらのお像はどこか丸みをおびたお姿。同じ多聞天ですが、受ける印象はまた違うものです。

地域とともに歩む

客殿から望む苔庭を背に、穏やかな笑顔で



5 阿弥陀如来像(国重文)。

6 多聞天像(国重文)。

7 奥田宗淳ご住職と寺庭の千佳子夫人。

ご住職がお話をしてくださいました。

奥田宗淳住職が圓福寺に入寺したのは五年前のこと。雪国生まれではない奥田住職は、はじめ雪の多さに戸惑ったといいます。「入寺したてのころは、私が雪に埋もれてないか、檀家さんが心配してよく見にきてくれました」と笑っていましたが、手つかずとなっていた圓福寺を立て直すため、大変な苦勞をされたようです。「魚沼の人たちは、みんな人情深くてあたたかい」とおっしゃっていましたが、檀家の方々や、近隣の智山派寺院ご住職の方々に温かく迎え入れられたことに、何度も感謝を口にされていました。

続けて奥田住職は思いを語ります。「お寺は、いまを一生懸命生きている人の力になれる。だから私も、いま檀信徒の役に立つことを一生懸命やるだけです。過疎化が進むなど、魚沼や圓福寺の未来は決して樂觀できるものではありませんが、ご本尊さまと檀信徒の皆さま、地域の人々とともに、今できることをあきらめず、歩みを進めていきたいのです」。檀信徒だけではなく、魚沼という地域にも貢献したいと話すご住職の目には、希望があふれていました。

魚沼は、深雪がもたらす豊かな水と、それによる米や蕎麦などの農産物が有名ですが、それだけではありません。春の雪解けや夏の

緑、黄金色に輝く秋の田や、冬の純白の世界など、来てみないとわからない四季折々の魅力があるとご住職はいいます。

いまずぐにでも圓福寺へお参りください、といいたいところですが、冬季は積雪のため参拝が叶いません。どうぞ春の雪解けを待って魚沼へ。雪解け水をたたえた圓福寺の苔庭が一層美しい季節です。

圓福寺へお参りの際は必ずお電話で予約の上ご参拝ください。ご住職と寺庭さんが温かくご案内してまいります。

(智山教化センター所員／中嶋亮順
撮影／清水健)



ACCESS アクセス

燕堂多聞天 圓福寺

〒946-0021 新潟県魚沼市佐梨433

☎025-792-0871

電車：JR小出駅からタクシーで約10分

車：関越自動車道小出ICから約15分

HPアドレス：<https://enpukuji.wixsite.com/official>

Instagram
ページ



ENPUKUJI.UONUMA

参拝の際は事前のご予約をお願いします。

今日の法語「成仏」

法語解説

毛利 芳己 (千葉県南房総市 沼蓮寺住職)

揮毫

結城 祐純 (東京都日野市 薬王寺住職)

成
仏

私たちは欲しいものを求め、思いどおりになるかどうかで一喜一憂します。それも人生の醍醐味かもしれません。ときに心は疲れてしまいます。心穏やかに過ごしたいですね。

成仏とは読んで字のごとく「仏に成る」ということ。お大師さまは、生きているうちに「仏に成る」ための方法を説かれています。

お大師さまの教えに触れ、新春の尊い日差しの中、仏さまのように心穏やかに過ごしてまいります。





「生きる力」とお大師さま ご縁を授かり、仏さまとともに生きてゆく 結縁灌頂・発心式

仏教が目指すゴール、それは「成仏」です。日本にはさまざまな宗派がありますが、目指す最終目的地はみな同じで、「仏と成る」ことに他なりません。仏教とは、仏が説く教えであり、仏に成るための教えなのです。真言宗が開かれる以前の仏教では、成仏するには永遠に等しい時間が必要で、生死輪廻を果てしなく繰り返す、その先をやっと成仏というゴールがあるとされてきました。しかし、天才空海（お大師さま）は、これ以上輪廻を重ねなくても、この生の内に、この身のままに、仏に成ることが出来る教えである「即身成仏」を主張しました。これこそが真言宗の大きな特徴です。

お大師さまは、

・ 私たちは本質的に仏さまと同一であること
・ 一人ひとりの心の内に仏さまがおわすこと
などの事実を明らかにし、それゆえに即身成仏は可能であると説き示されました。

しかしながら、普通に生活しているだけでは、私たちがこれらの事実に気づけず、「私も本来仏なのだ」などと自覚することは困難です。たとえば「仏さまのお力を感じる」ということも、いくら言葉で説明され論理的には理解ができて、そこに実体験や実感が伴わなくては空しいばかりで納得もできないでしょう。それゆえに真言宗では、言葉による理解を超えた「体得」、実際に自分が感じ

る。ことを重視しています。ここに真言宗の醍醐味があるのだといえるでしょう。

本稿では「発心式」と「結縁灌頂」を取りあげます。これらはともに、仏さまと出会い、ご縁を授かる儀式。であり、仏さまのお力をいただきながら、自身と仏さまとのつながりを実感できる儀式。です。この実感こそが「生きる力」の体得に他なりません。そうして檀信徒の皆さま一人ひとりが仏弟子としての自覚を新たにし、言葉を越えた「仏さまとともに生きている」という安らぎを得て、より幸せな人生を歩んでいただくことに大きな意義があります。

発心式

発心とは発菩提心の略で、「菩提心を発す」という意味です。菩提とはサンスクリット語のボーデー (bodhi) の音写語で、「さとり」を意味します。菩提心という時には二とありの解釈があり、一般的には「さとりを求める心、求道心」などとされます。他方、真言宗では「菩提」という心、本来自心に備わるさとりそのもの」という理解を特に大切にします。さて、発心式とは、菩提寺のご本尊さまの御前において特別な作法や読経などを行い、参加者の名前を報告して、ご本尊さまと参加者とのご縁を結ぶ儀式です。僧侶でいえば得

度式にあたります(得度については一四号の「智積院の修行生活」で解説しています)。菩提寺のご住職の導きのもと、檀信徒の皆さまは仏弟子としての心がけ(戒)とご本尊さまのお力を授かり、仏教徒として生きてゆくことを誓います。

あらためて発心とは何か? 一つは「新たに」さとりを求める心を発す」ということ、つまり仏教徒として生きてゆくことを誓

うことです。もう一つは「すでに自身に具わっているさとりの心を発す(目覚めさせる)」ということ。最も大切なのは、発心式を勝縁に、菩提寺のご本尊さまとの、そして自心の内におわす仏さまとの、つながりを自覚し、仏教徒として、また菩提寺を支える檀徒として生きてゆくことだと思えます。



菩提心の象徴である「五鈷杵」。発心式ではこの五鈷杵を授かります。



仏さまの慈悲と智慧を授かる「灌頂」(頭頂に水を灌いでいる)の様子。

灌頂について

灌頂とは「頂に灌ぐ」という意味です。その昔、インドにおける王位継承の儀式で、新しい王の頭頂に四海の水を灌いでいたことに由来します。密教はこの儀礼を師資相承の儀式に取り入れ、師から弟子へと教えの秘奥を余すことなく伝授し、正当な後継者とするための重要な作法と位置づけました。この灌頂作法によって、真言密教は現在まで脈々と相承されています。

このように、真言宗における灌頂とは、仏さまの大なる慈悲に包まれて、仏さまの限りないいのちの中に生かされていることを実感して安らぎを得、また連綿と受け継がれてきた教えを授かることです。

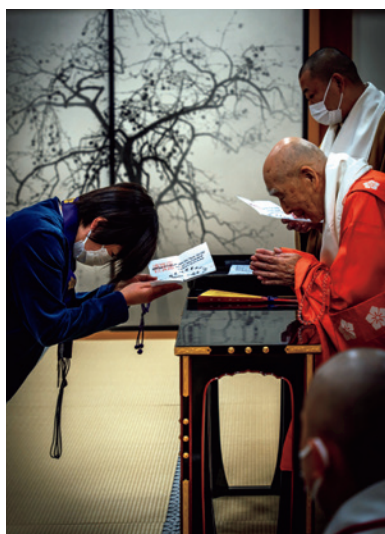
現代でも真言宗では、所定の修行を終えた修行僧は、灌頂を受けることによって一人前の僧侶として認められます。師資相承の教えを、強い志をもって受け継ぎ伝えていくので、これを「伝法灌頂（仏さまの法を伝える灌頂）」といいます。他方、仏さまと出会う感動を体得していただくため、檀信徒の方々に向けて行われる灌頂が「結縁灌頂（仏さまと出会い縁を結ぶ灌頂）」です。



結縁灌頂を成満した証として、「血脈」と「投華（投華得仏で投げた華）」、そして法名（金剛名号、戒名）を授かります。

結縁灌頂

ひろく人々に仏縁を結んでいただくための、この上なく尊い儀式が「結縁灌頂」です。まず、心身を清らかに保ち、真言宗徒として生きてゆくための戒を授かります。そして、一人ずつ道場に導かれます。そこでは、曼荼羅を描いた壇の上に華を投げ、その華の落ちたところの仏さまとあなたのご縁が結ばれるのです。これを「投華得仏」といいます。投華得仏にてご縁を結んだ仏さまが自分のご本尊さまとなり、その後、阿闍梨（導師）



化主猊下による「血脈」授与の様子。

さまから直接、その仏さまの印と真言を授かります。最後に、結縁灌頂を成満した証として「血脈」を手渡され、また真言密教の世界の一員としての新たな名前「法名」（金剛名号）を授かります。この名前は、世俗の社会にありながらも、仏さまとともに生きてゆくことを表す名前となります。

仏さまとともに生きる

結縁灌頂も発心式も、檀信徒の皆さまが、真言宗の世界を体験することで仏さまと出会う

目次

智山寺院探訪 燕堂多聞天 圓福寺	2
今日の法語 (毛利芳己・結城祐純)	5
特集 「生きる力」とお大師さま ご縁を授かり、仏さまとともに生きてゆく 結縁灌頂・発心式	6
よくわかる『智山勤行式』(佐々木大樹)	10
智積院の修行生活 (長谷川優)	12
梵字よもやま話 (小峰智行)	14
日本の四季を切り取る十七文字 (星野高士)	15
十卷章—真言宗の教えを紐解く— (駒井信勝)	16
暦のおはなし (上村正健)	18
ごくらくらくご (三遊亭竜楽)	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
寺院建築の心 (菊池恭二)	24
総本山の便り	26
自と他の間にある利他 (伊藤亜紗)	28
花に聞く 仏に聞く (佐々木隆元)	29
私のお大師さま ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko (内藤理恵子)	30
十善戒と生きる力 (佐竹隆信)	31

い、宗教的感動を得て、「生きる力」を体得していただくための儀式です。

発心式は、各菩提寺にて行われることが多いですが、詳しくは各菩提寺のご住職にお尋ねください。なお、「入壇式」「お授け」と称されることもあります。

結縁灌頂は、年に一度、総本山智積院にて勤修されています。厳粛な空気の中、美しく荘厳された道場にて、ぜひ仏さまと出会い、仏さまのご縁をお結びください。

私たち真言宗智山派は、「生きる力—仏さ

まに祈り、仏さまと出会う」を旗印としています。「生きる力」とは、一人ひとりの実感や体験によってのみ得られるものだと思います。そして、生きる力とは、「仏さまとともに生きている」という安らぎの実感」に他なりません。この機会に、一人でも多くの方がこれらの儀式にご参加いただき、また「仏さまとともに生きている」感覚を得て、より充実した心安らかな日々を送っていただければ幸いです。

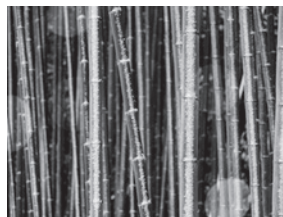
(智山教化センター／平野隆光)

表紙

霧氷林
奈良県

奈良県と三重県の県境にある高見山。西側から見ると綺麗なピラミダルな形状で「関西のmatterホルン」とも呼ばれている。山頂付近のブナ林では霧氷がよく見られ、冬の絶景が広がる。山頂から朝焼けを撮影した後はブナ林に入る。巨木が目止まり撮影を楽しんだ。

P5

しんしんと
岐阜県

自宅から近くの隣県にはかぐや姫の小径と名のついた綺麗な手入れをされた竹林がある。最近では珍しく降雪となり足を運んでみた。予想通り、竹の幹に雪が着雪する冬ならではの竹林の情景に、ストロボを使用して降雪の玉ボケを演出効果として撮影した。

撮影・解説／大島隆義

令和7年カレンダー発行のお知らせ (各1部 110円)



令和7年のカレンダーを
2種類ご用意いたしました。
ぜひご利用ください。

(各1部110円) お問い合わせは本誌P.23出版係まで

ポスター
カレンダー(B2版)
「星曼荼羅」

智積院寺宝をポスターサイズで紹介するカレンダー。今回は、除災招福・無病息災などを祈るために、それぞれの人の持つ星を供養しお祀りする「星供養」のご本尊さま「星曼荼羅」です。

柱かけカレンダー
「今月の法語」

お部屋の柱などにかけてお使いいただける月めくりのカレンダー。今回は、お大師さまの詩や文章を集めた撰集である「性霊集」の中から特徴的なお言葉を選びました。



京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町 964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

宿坊 智積院会館

- ◆ 一泊朝食付きプラン(夕食別途) 9,000円から(宿泊税・消費税込)
- ◆ 夕食 3,300円から(消費税込)
- ご予約・お問い合わせ TEL 075-541-5363
- ・JR京都駅よりバス約10分
- ・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※ご宿泊のご予約は、6ヶ月前の1日より開始いたします。令和6年12月現在、令和7年6月までのご予約を受け付けております。

写経のつどい(法話と般若心経写経)
毎月21日 13時より(受付12時より)
於 智積院金堂地下ホール
(納経料千円・要事前申込 定員60名)

智積院阿字観会(眞言宗の瞑想)
毎月8日もしくは12日
14時より(受付13時より)
※詳細はホームページをご確認ください
於 智積院金堂地下ホール
(参加灯明料五百円・要事前申込 定員20名)

冬報恩講(興教大師さまのご命日)
出仕論議 12月11日(水)10時より(参拝無料)
陀羅尼会 12月11日(水)16時より(参拝無料)
御法事 12月12日(木)10時より(参拝無料)

常楽会(お釈迦さまのご命日)
御逮夜 2月14日(金)15時より(参拝無料)
常楽会 2月15日(土)10時より(参拝無料)

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日
12月6日(金) 12時より
1月8日(水) 11時30分より
2月7日(金) 12時より
新春大護摩供法要

納大護摩供法要
12月18日(水) 15時より

やすらぎ寄席
12月5日(木) 談志一門会
1月16日(木) 談志一門会
2月20日(木) 三遊亭
各日とも18時30分より

真福寺阿字観会
2月18日(火) 15時より
於 本堂
(無料・要事前申込・定員30名)
※12月・1月は開催いたしません。

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院

平成十年十二月十六日第三種郵便物認可「生きるカSHIINGON」第一一九号 令和六年十二月一日発行 年四回(六月・九月・十二月・三月の一日)発行 定価二〇〇円(税込)
発行人/三神栄法 編集/智山教化センター 発行所/〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町九六四 総本山智積院内 眞言宗智山派宗務庁